

市民活動・コミュニティ活動の 実態調査報告書

～ 全国500団体の市民活動実態調査 ～

調査概要



調査概要

- 調査目的：市民活動・コミュニティ活動の運営についての
実態を把握すること
- 調査対象：市民活動・コミュニティ活動をしている団体
(NPO、市民活動、地域活動、サークル活動)
- 調査内容：事業・活動/組織/IT/広報/資金/課題、など
- 調査期間：2023年12月1日～2024年1月15日
- 回答数：513団体
- 調査主体：NPO法人CRファクトリー
調査責任者 呉 哲煥(ご てつあき)



調査協力団体

- 認定NPO法人杜の伝言板ゆるる／みやぎNPOプラザ
- NPO法人まつどNPO協議会／まつど市民活動サポートセンター
- しろい市民まちづくりサポートセンター
- NPOくまがや／熊谷市市民活動支援センター
- かわさき市民活動センター
- 認定NPO法人新潟NPO協会
- 魚沼市集落支援員
- NPO法人やまぐち県民ネット21／やまぐち県民活動支援センター
- 特定非営利活動法人佐賀県CSO推進機構 佐賀市市民活動プラザ事業部
- 一般財団法人くまもと未来創造基金
- 一般社団法人幸せなコミュニティとつながり実践研究所
- 一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス

基本情報

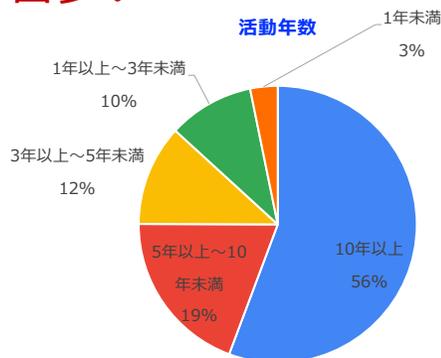


基本情報 (約500回答)

【活動年数】

10年以上の団体が55%で一番多い

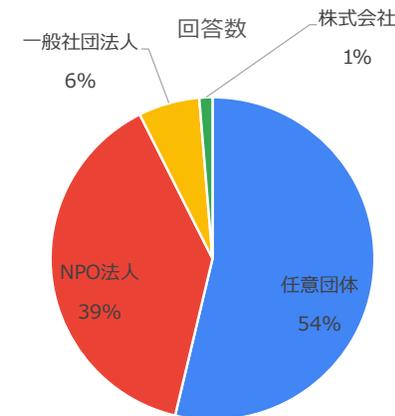
- 10年以上 55%
- 5年以上～10年未満 20%
- 3年以上～5年未満 11%
- 1年以上～3年未満 10%



【法人格】

任意団体が約半数

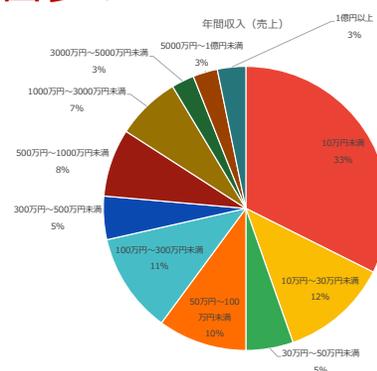
- 任意団体 49%
- NPO法人 37%
- 一般社団法人 6%



【年間収入】

10万円未満の団体が31%で一番多い

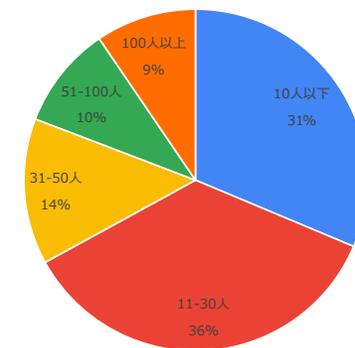
- 10万円未満 31%
- 10万円～30万未満 12%
- 100万円～300万円未満 11%
- 50万円～100万円未満 10%



【メンバー数】

メンバー数は30人以下が3分の2

- 10人以下 31%
- 10～30人 36%
- 31～50人 14%
- 50～100人 10%
- 100人以上 9%

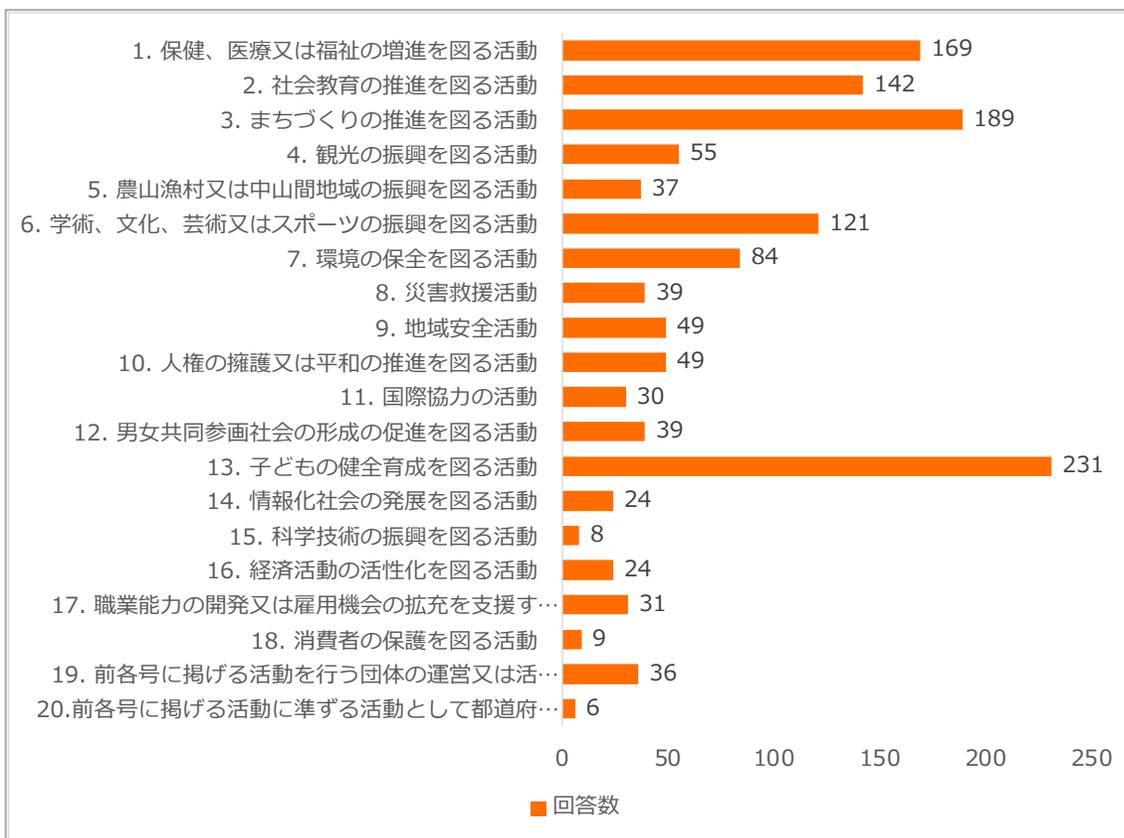




基本情報 (約500回答)

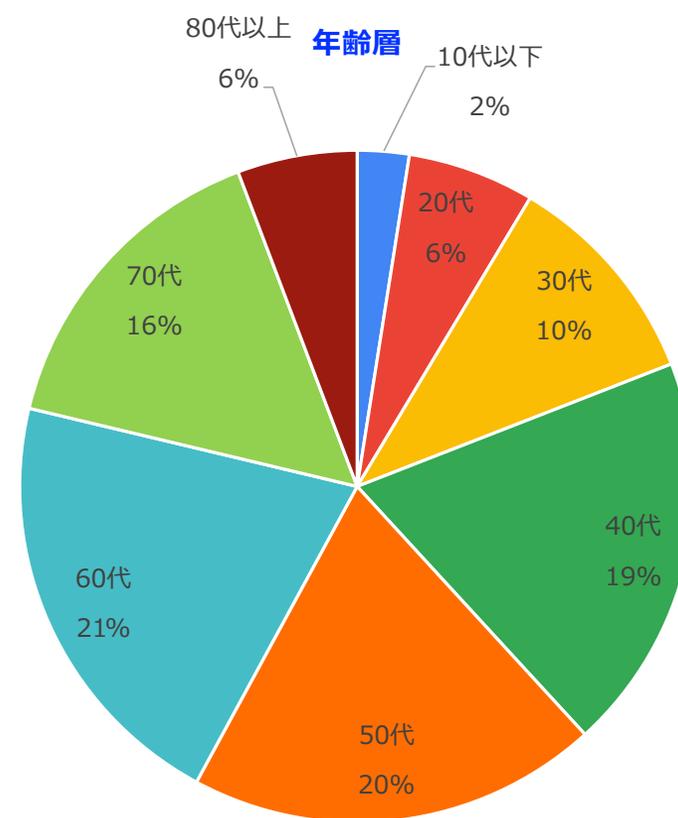
【主な活動分野】

「子どもの健全育成」が最も多く、「まちづくり」「医療・福祉」「社会教育」「文化・芸術」と続く



【メンバーの年齢層】

「40代」「50代」「60代」「70代以上」がそれぞれ同じくらいの割合



実態調査から見えてきた7つのポイント



実態調査から見えてきた7つのポイント

1. 市民活動・コミュニティ活動とは「イベント」である
2. 「小さい団体・活動」が「たくさん」ある（森の生態系／星空）
3. 事業の悩みも、広報・IT・資金の悩みも、詰まるところは「人・組織・担い手の問題」に帰結する
4. 公共施設は重要！（公民館・区民館・市民活動センターなど）
5. コロナによって「事業」と「組織」は大きく変化した、
「財政」状況はそれほど変化していない
6. やっぱりコロナは活動（事業・組織）に大きな影響を与えた
7. コロナ明けの市民活動・コミュニティ活動の課題と方向性



実態調査から見えてきた7つのポイント

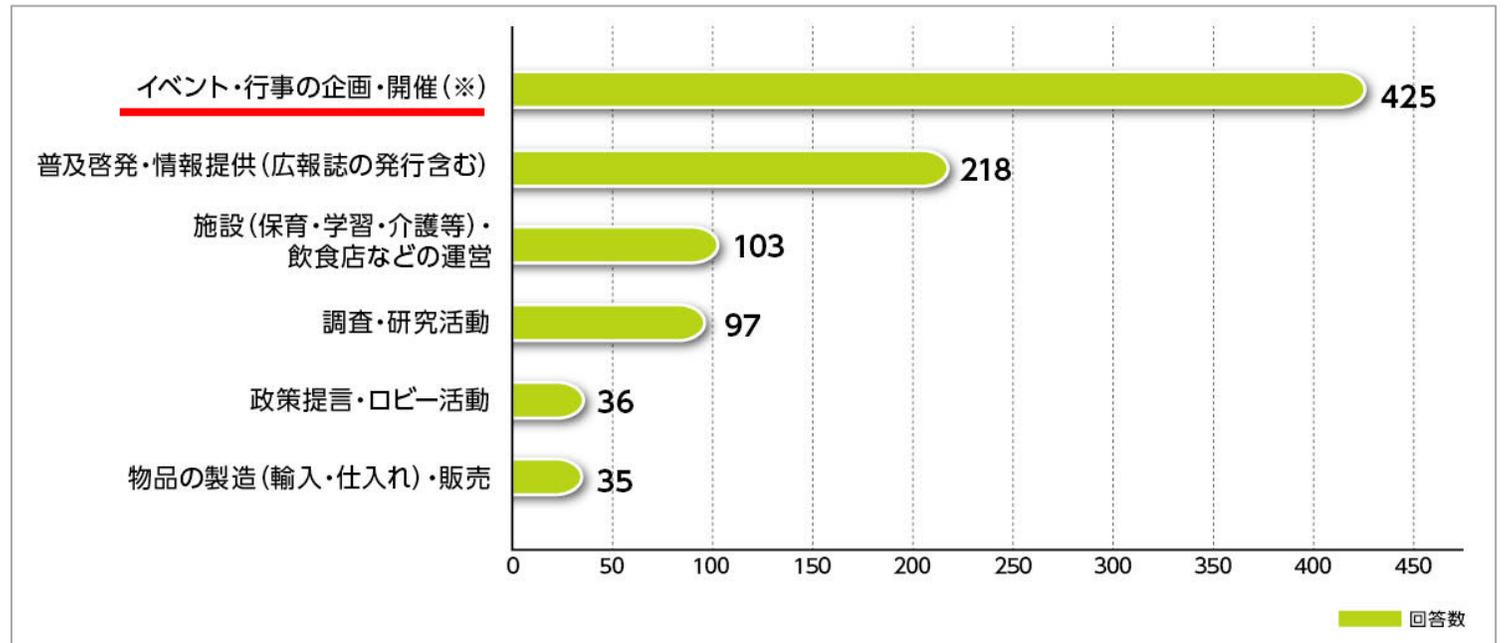
1. 市民活動・コミュニティ活動とは「イベント」である

n=506

回答者の513団体中、**425団体**（約83%）が「主な活動」に「**イベント・行事の企画・運営**」を選んだ。

市民活動・コミュニティ活動のとは「**イベント**」であり、**規模や種類の様々なイベント**を数多く実施して、**人を集め、体験をつくり、交流やつながり**をつくっている。

※ 「イベント・行事」とは、講座／勉強会／ワークショップ／シンポジウム／コンサート／展示会／スポーツ等の練習・試合／お祭り／交流会、などを指します



Q2. 主な活動は次のうちどれにあてはまりますか？（複数回答可）

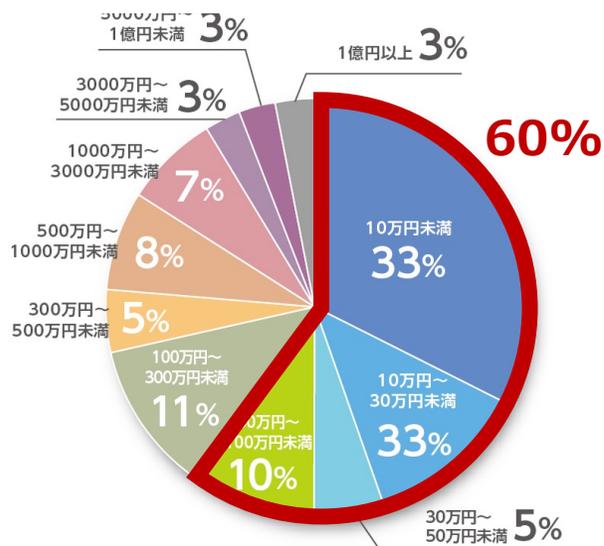
- 「イベント・行事」が1位の83%で圧倒的に多い
- 「普及啓発・情報提供」も43%の2位で多い



実態調査から見えてきた7つのポイント

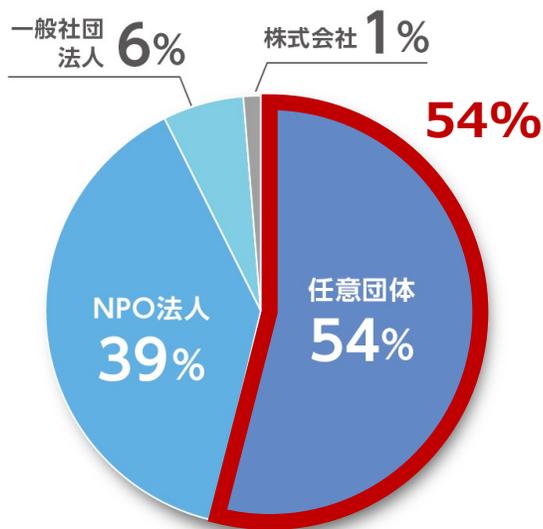
2. 「小さい団体・活動」が「たくさん」ある（森の生態系／星空）

年間収入(売上)



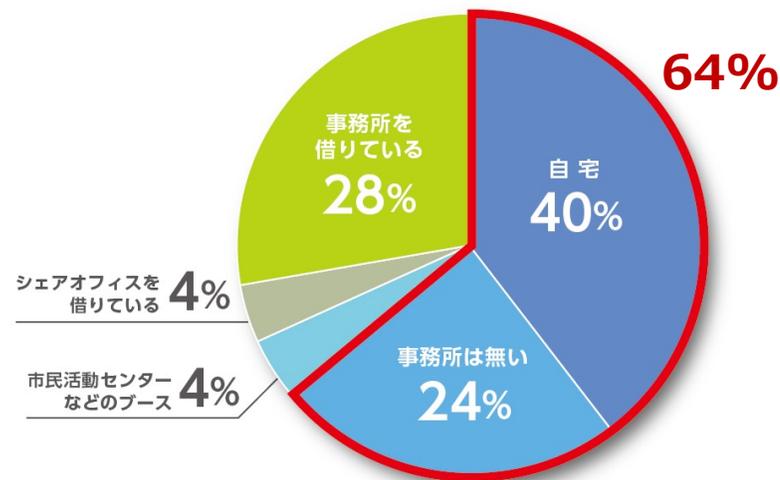
10万円未満の団体が33%で1位
100万円未満の団体が全体の60%

法人格



任意団体が54%

事務所の場所・形態



事務所は自宅が40%
事務所がない団体も24% } 64%



実態調査から見えてきた7つのポイント

3. 事業の悩みも、広報の悩みも、詰まるところは 「人・組織・担い手の問題」に帰結する

事業の
悩み編

Q14. 事業・活動・イベントでの悩み・課題にはどのようなものがありますか？

- スタッフ不足
- スタッフの高齢化（後継者発掘が困難）
- 会員の高齢化が進み運動を継承する若い人が居ない
- ボランティアの人数、演者の確保
- 参加者の固定化、高齢化、減少
- イベント開催のスタッフも、集客も、高齢化が課題
- 高齢化でお世話係、役員不足
- お手伝いをしてくれう人を見つける場が不足している
- 会員の高齢化、新しい人の入会が少ない
- メンバーの高齢化。若い人の巻き込みが難しい。
- 人手不足、資金不足
- 活動に人員不足
- 活動スタッフの高齢化。人材不足。
- 人手不足！
- 幹部人材不足
- 企画側メンバーの不足
- 高齢化、世代継承の難しさ
- スタッフが少ない
- 支え手の高齢化と人数不足
- 若い世代への引き継ぎ、会員の高齢化、
- 人材育成、事業継承（担い手の育成）
- リーダーがないのでいつも同じ人になる
- 団体組織の高齢化
- 新しいメンバーが入ってこない。
- 会員数の減少、人材（理事、役員）の不足
- 主催者の高齢化



実態調査から見えてきた7つのポイント

3. 事業の悩みも、広報の悩みも、詰まるところは「人・組織・担い手の問題」に帰結する

広報の
悩み編

Q38. 広報についての悩み・課題にはどのようなものがありますか？

- 担当できる人が少ない。
- 現場が忙しすぎて広報にかける時間がなかなか取れない。
- 代表がひとりでやっているの、発信量が体調などに左右される、波がある。
- 情報発信等、以前は行っていたが、それに携わるボランティアがおらず、現在は中止中。
- ホームページは、1人しか担当してくれるスタッフがいないので、随時の更新が難しい。
- 大事な作業なんだけど、自分だけがやっていてやや負担を感じている。
- SNSでの広報に向けたコンテンツの準備の負担が大きい。
- 報告をなかなか挙げられていない。ひとりでする負担が大きい。
- 団体として戦略的に動けていない。個人のタスクとして後回しになる。
- 広報活動をしないと活動への理解・協力は得られないとわかっていつつも、広報・情報発信業務が負担に感じる（活動だけで精一杯）。
- ホームページやチラシ制作の人材が限られている。
- 発信者がかぎられ、なかなか更新できない。
- 代表以外に広報を担える会員がほとんどいない。
- こまめにSNSに情報をアップできる担当者がいない。そこまで手が回らない。
- 広報を担当するスタッフがいらない
- チラシ作成、印刷、プリントネット発注、学校への学級ごと配布依頼等が代表ひとりで担っている現状。
- チラシ作成を代表が一手にやっている。
- 一人でやっているの大変。
- できる人が限られていてその人のメインの仕事の片手間にやってもらっているの、なかなか進まない。



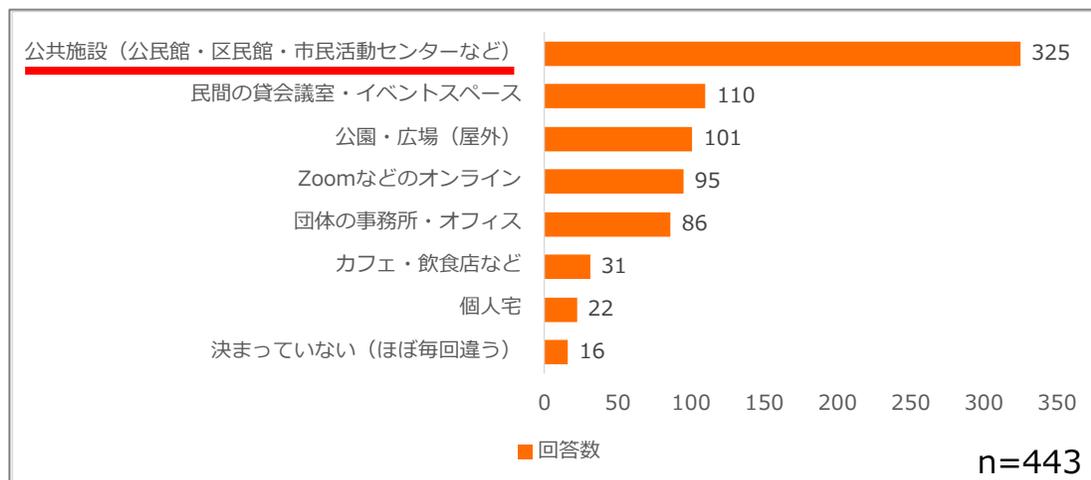
実態調査から見えてきた7つのポイント

4. **公共施設**は重要！（公民館・区民館・市民活動センターなど）

「イベント・行事」においても、「会議・ミーティング」においても、公民館・区民館・市民活動センターなどの「**公共施設**」が最も活用されていた。市民活動支援において「**場所**」の支援は重要だと考えられる。

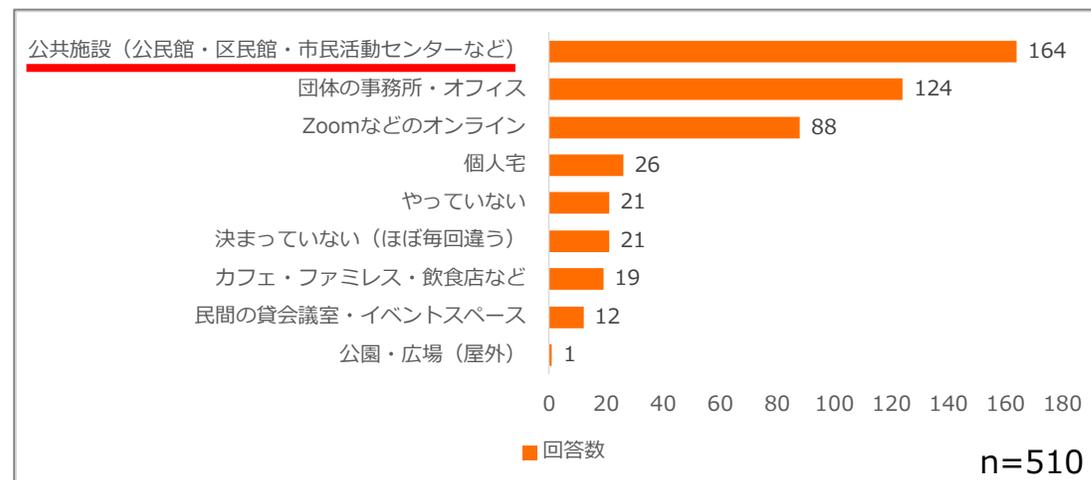
【イベントの開催場所】

Q3.団体の主要なイベント・行事は主にどこで行っていますか？



【ミーティングの開催場所】

Q15.ミーティングは主にどこで行っていますか？



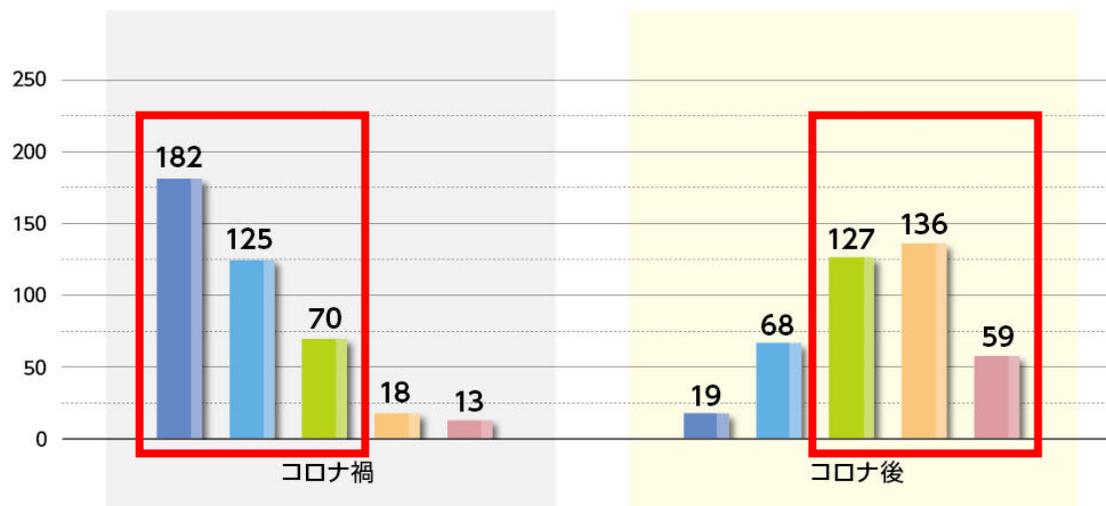


実態調査から見えてきた7つのポイント

5. コロナによって「事業」と「組織」は大きく変化したが、「財政」状況はそれほど変化していない

Q50. コロナ前（～2020年1月くらいまで）を基準としたときに、
コロナ禍（2020年2月～2023年5月）やコロナ後（2023年5月～）の
事業・活動・イベントの状況はいかがですか？

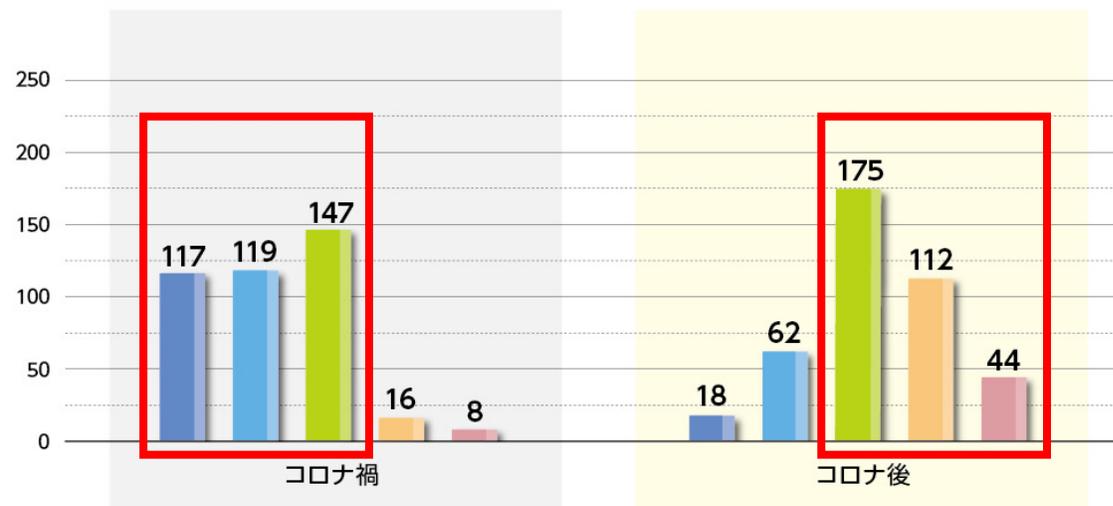
■ かなり停滞した ■ やや停滞した ■ あまり変わらない ■ やや活発になった ■ かなり活発になった



事業

Q51. コロナ前（～2020年1月くらいまで）を基準としたときに、
コロナ禍（2020年2月～2023年5月）やコロナ後（2023年5月～）の
人と組織の状況はいかがですか？

■ かなり停滞した ■ やや停滞した ■ あまり変わらない ■ やや活発になった ■ かなり活発になった



組織



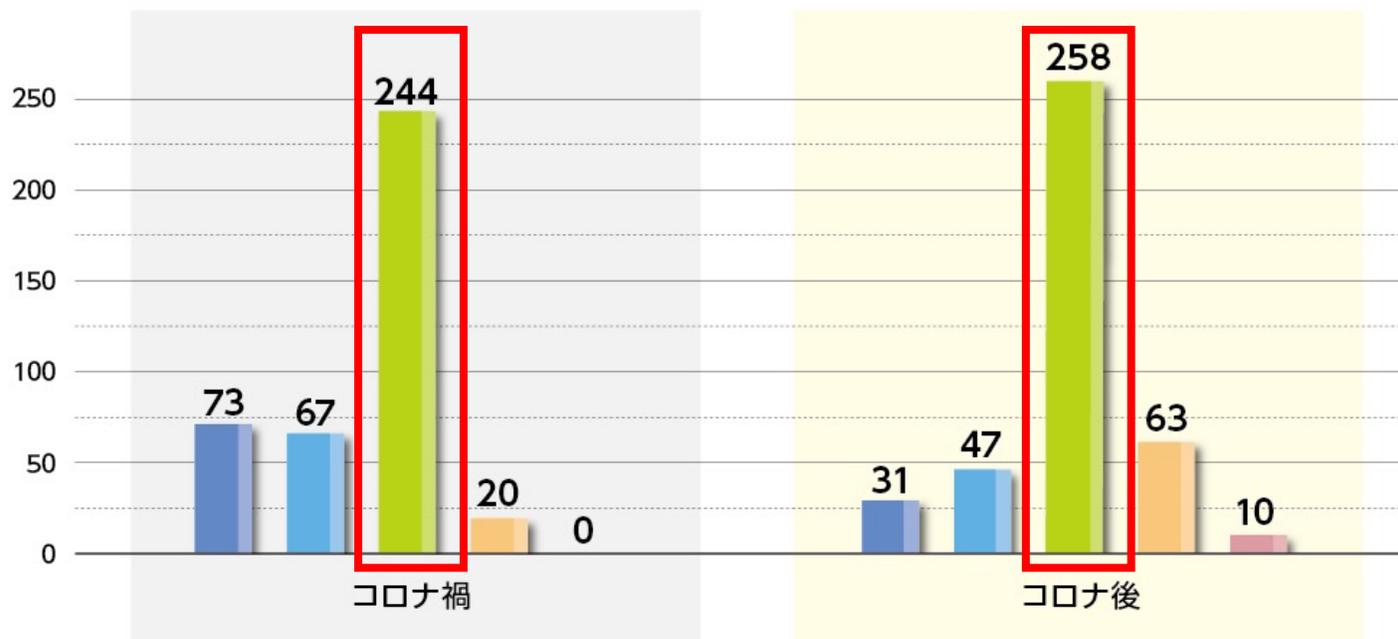
実態調査から見えてきた7つのポイント

5. コロナによって「事業」と「組織」は大きく変化したが、「財政」状況はそれほど変化していない

Q52.

コロナ前（～2020年1月くらいまで）
を基準としたときに、
コロナ禍（2020年2月～2023年5月）
やコロナ後（2023年5月～）の財政の
状況はいかがですか？

■ かなり停滞した ■ やや停滞した ■ あまり変わらない ■ やや活発になった ■ かなり活発になった



財政



実態調査から見えてきた7つのポイント

6. やっぱり**コロナ**は活動（事業・組織）に大きな影響を与えた

各種のデータから、やはり**コロナ**は活動（事業・組織）に大きな影響を与えたことがわかる。市民活動・コミュニティ活動とは「**イベント**」であり、主な活動場所の「**公共施設**」も使えなくなり、「**事業・組織**」がしぼんだ。

Q48. コロナ禍で最も大変だったことは何ですか？

- | | | |
|--|----------------------------------|--|
| ■ イベントの中止 | ■ 会議が開かれなかった | ■ 公共施設が使えなかったこと |
| ■ イベントが開催できなかったこと | ■ イベントができなかった | ■ 居場所の開催が出来なかった |
| ■ オンラインへの切り替え | ■ イベントの開催ができなくなった | ■ 会場が使えず、毎月の行事を休まざるを得なかった |
| ■ イベントが開催できなかった | ■ 対面会議ができなくなった | ■ 人との関わりが分断されたこと |
| ■ 集会ができない | ■ イベントへの参加が出来なかった。イベントそのものがなかった。 | ■ 対面活動が自粛されたため活動が低調となった。Zoomのみでは絆が深まらない。 |
| ■ いろいろありますが予定していたイベントが会場の都合で中止になったことです | ■ 大勢で集まれない。懇親会ができない。 | ■ イベント、行事が減った |
| ■ 活動ができなかった | ■ イベントができない | ■ 講座が開催できなかったこと。会議が出来なかったこと |
| ■ 食事会のような活動ができなかったこと | ■ リアルで人を集めることができなかった | ■ イベントの開催ができなかった |
| ■ 例会が出来なかったこと | ■ 例年のイベントも中止せざるを得なかった | ■ コミュニティに関わる方々（仲間）との関係性の維持 |
| ■ 定例の運営委員会の開催ができないこと | ■ 行事が出来なかった | ■ 活動休止になったこと |
| ■ 各種イベント開催がほとんど中止になったこと | ■ こどもたちの活動が制限されたこと | |
| ■ 活動が全く出来なかった | ■ 飲食に気を使う | |



実態調査から見えてきた7つのポイント

7. **コロナ明け**の市民活動・コミュニティ活動の課題と方向性

コロナが明けて、リアルがつくりやすくなった環境においても、「**活動の再開・復活の難しさ**」や「**スタッフの活力・モチベーション・関係性**」を戻す（再構築する）ことの大変さが浮かび上がってくる。

Q49. コロナ禍に収束の見通しが立ってきた今、活動を進める上で課題に感じていることは何ですか？

【活動を再開する難しさ】

- リアルでの活動をどのように復活していくか
- 事業を再開しても参加者が少ない
- 仕事以外で外出し集まることに倦怠感を示す会員の増加
- 一度中止するとなかなか元に戻らない
- イベントを元の大きさに戻したら、人が集まるだろうか
- 2年間切れた活動の再構築

【オンライン】

- 主催者は対面に戻りたいが、参加者はオンラインのままを希望していること
- ハイブリッドの難しさ
- オンラインのイベントに飽きてきたこと

【スタッフとの関係性・モチベーション】

- 一度止めた活動を再開するエネルギー
- メンバーのモチベーションが下がった
- スタッフの活動への復活
- 関係性が薄くなった方や組織との関係性の修復
- 気持ちが離れてしまっている会員への呼びかけ
- 会員の気力が戻ってくるかが心配

【その他】

- コロナ禍に限らず、担い手
- 対面にする基準の話し合いや認識をそろえること
- コロナ禍でオンライン支援が普及し、オンラインだから参加しやすい人も多くいる。

IT編

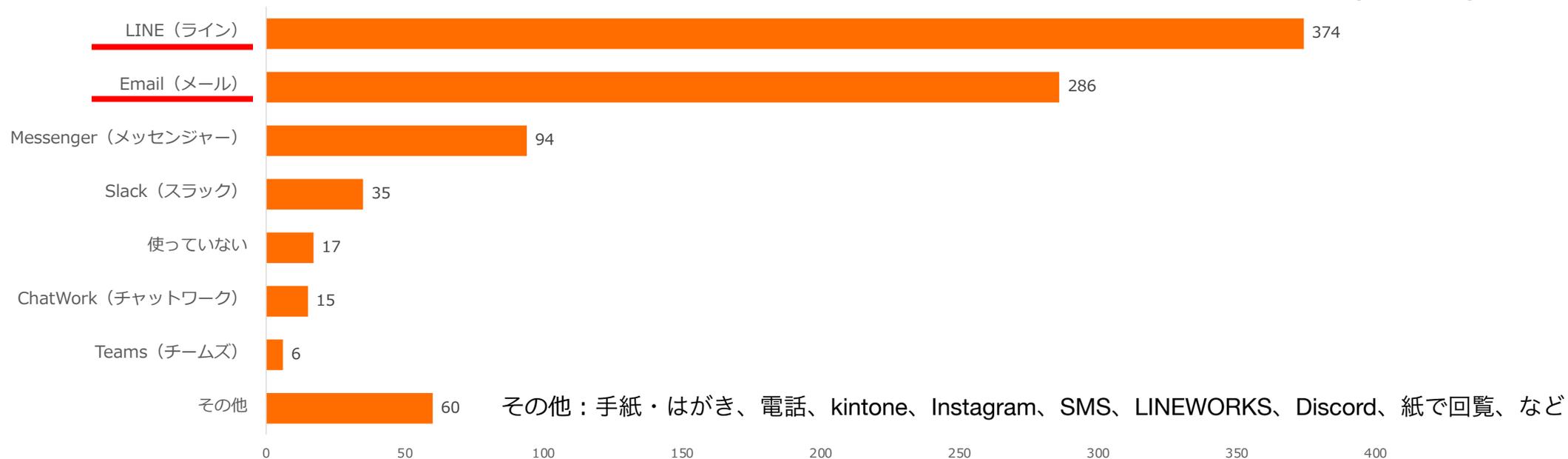
コミュニケーションツール

団体内のコミュニケーションツールはLINEとEmailが圧倒的

■ LINE 1位 73%

■ Email 2位 56% (Messengerが18%で3位)

Q24. 団体内のコミュニケーションツールは何を使っていますか？ (複数回答可) (n=510)



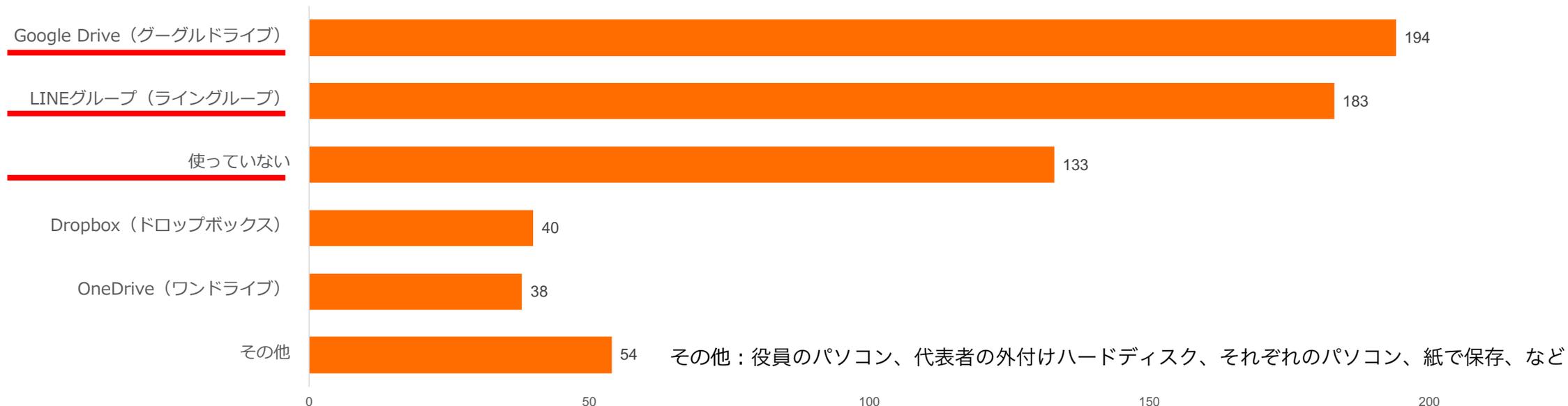
ファイル共有ツール

ファイル共有ツールはGoogleDriveとLINEグループが強い

■ Google Drive 1位 40%

■ LINEグループ 2位 37% (使っていない団体が3位で27%いる)

Q25. 団体内のファイル保存ツールは何を使っていますか？ (複数回答可) (n=491)

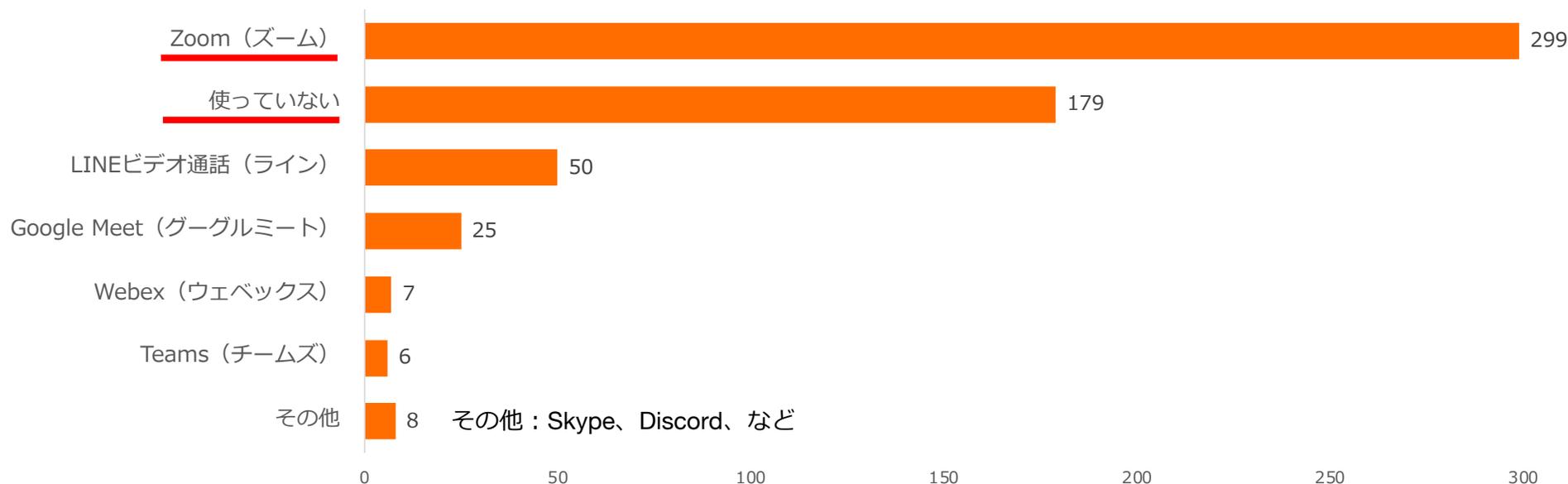


オンライン会議ツール

オンライン会議ツールはZoomが圧倒的（使っていないも多い）

- Zoom 1位 59%
- 使っていない 2位 36% （LINEビデオ通話 3位 10%）

Q26.団体内のオンライン会議ツールは何を使っていますか？（複数回答可） (n=506)



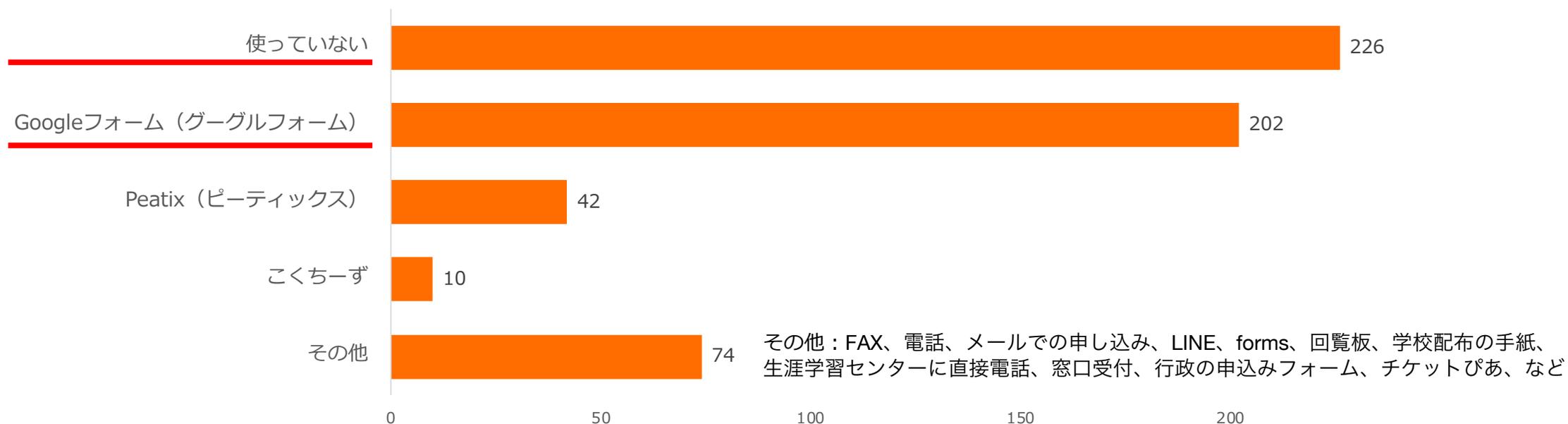
申込みフォームツール

申込みフォームはGoogleフォームが圧倒的（使っていないも多い）

■使っていない 1位 46%

■Googleフォーム 2位 41% （Peatix 3位 8%）

Q28. イベントなどの申込みフォームツールは主に何を使っていますか？（複数回答可）（n=495）



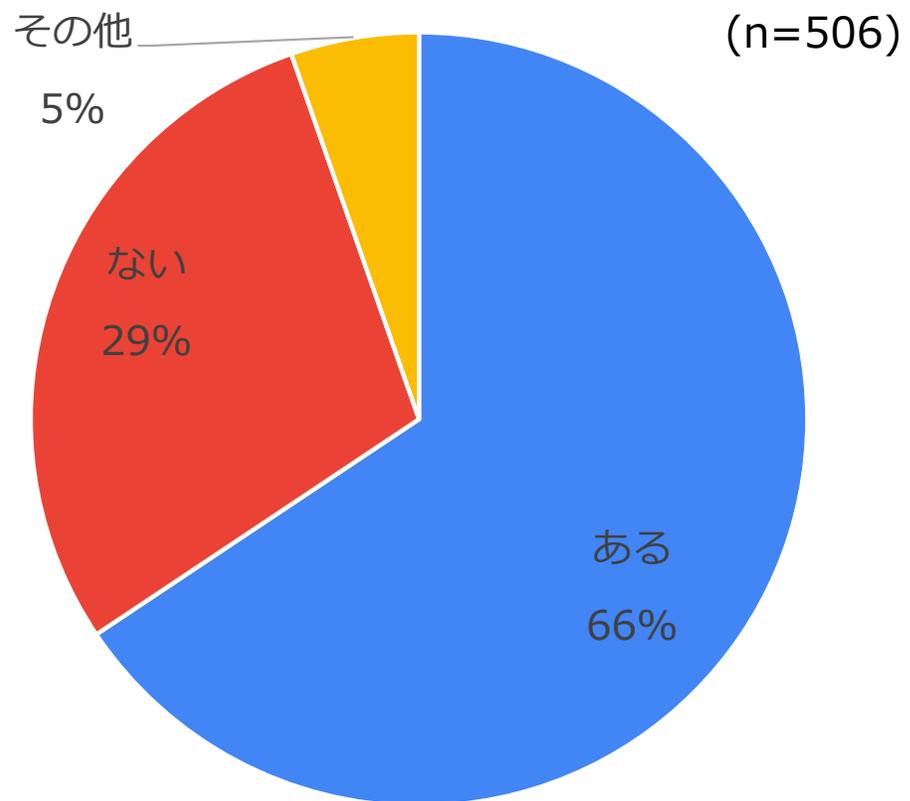
広報編

ホームページ

ホームページを持っている団体は約2/3

- ホームページある 66%
- ホームページない 28%

Q30.団体のホームページはありますか？

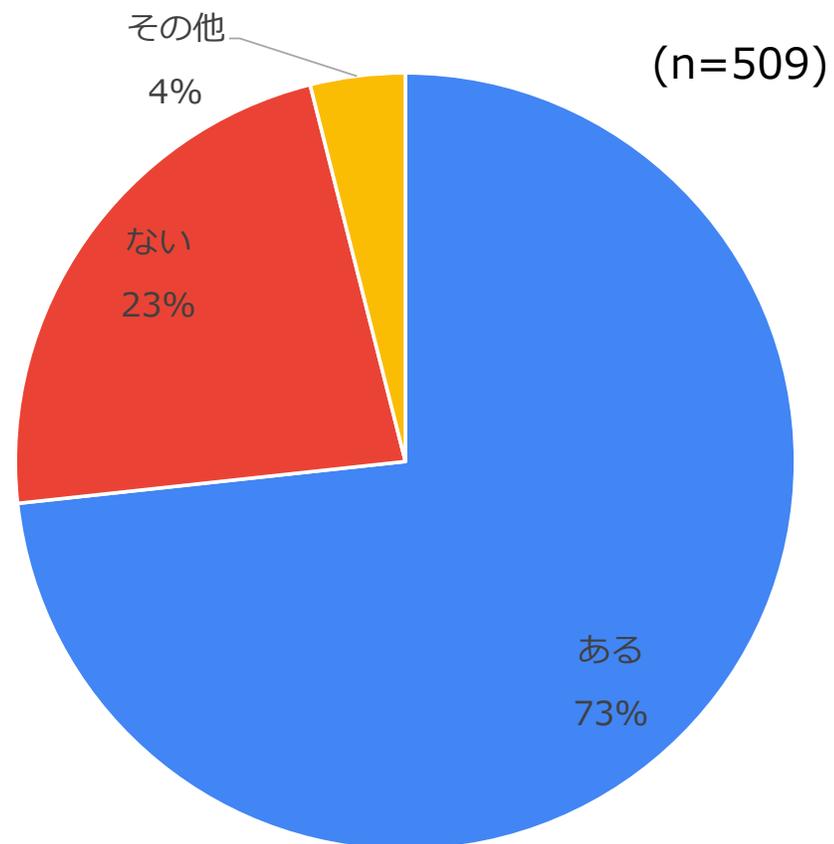


チラシ・パンフレット

チラシ・パンフレットを持っている団体は7割以上

- チラシ・パンフレットある 73%
- チラシ・パンフレットない 23%

Q34. 団体を紹介するチラシやリーフレットやパンフレットはありますか？



ホームページ作成ツール

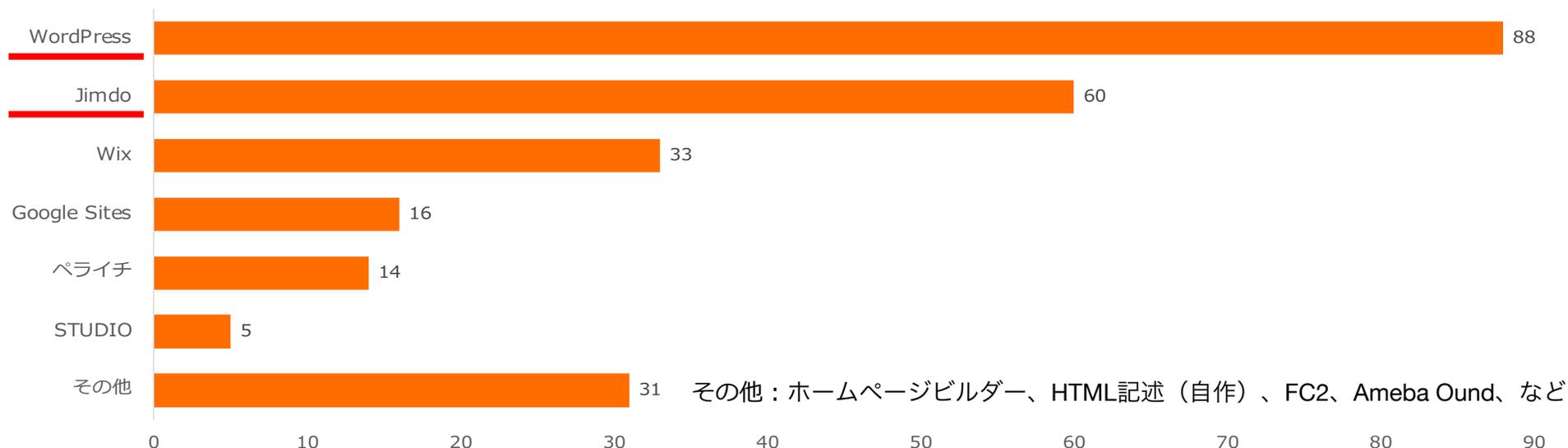
ホームページ作成ツールはWordPressとJimdoが強い

■ WordPress 1位 39%

■ Jimdo 2位 26% (Wix 3位 15%)

Q33.自分たちでホームページをつくっている方にお聞きします。

ホームページ制作にはどのツールを使っていますか？（複数回答可） (n=227)



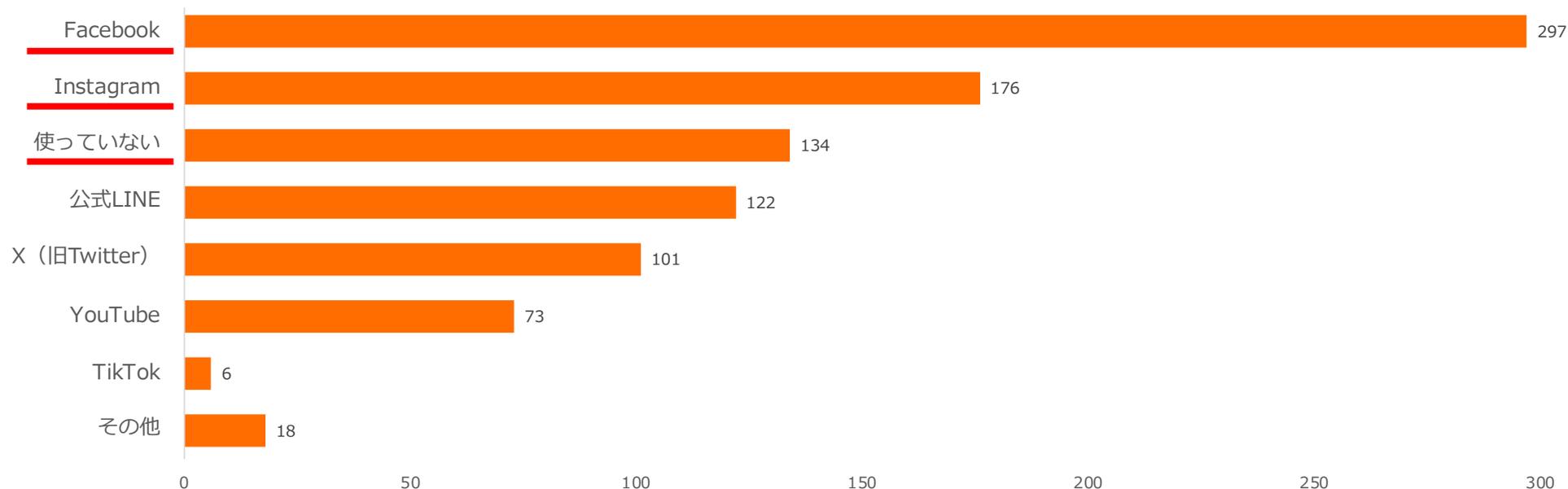
SNSはFacebookとInstagramが強い

■ Facebook 1位 59%

■ Instagram 2位 35% (使っていない 3位 27%)

Q36.団体のSNSは主に何を使っていますか？ (複数回答可)

(n=501)

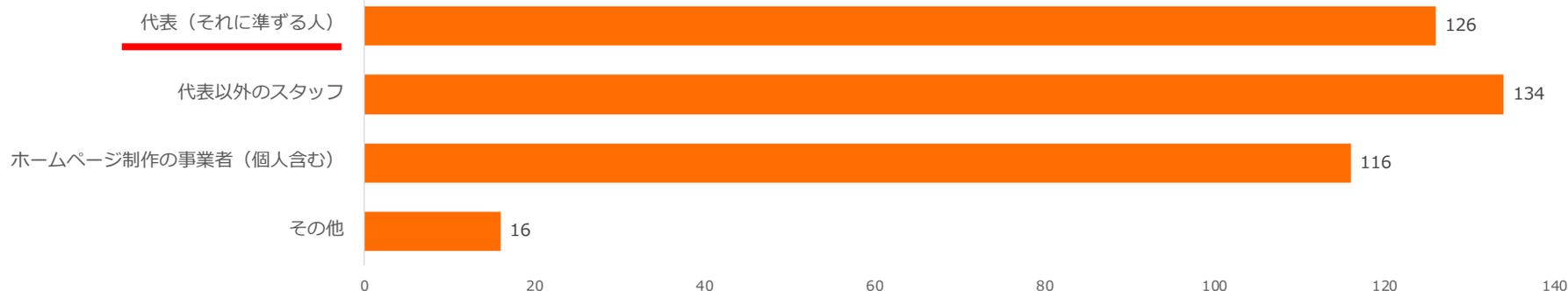




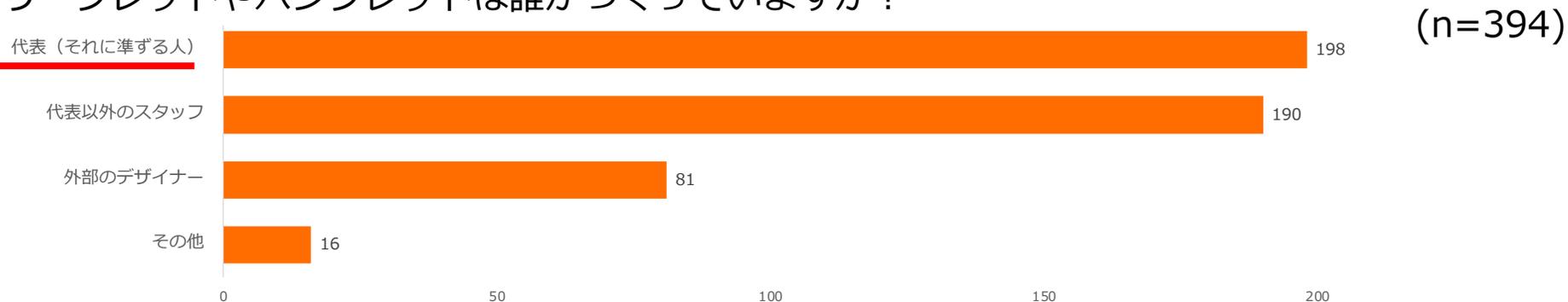
ホームページやチラシの作成の担い手

ホームページやチラシの作成は、代表とスタッフが半々くらいで担っている。**代表が実務をかなりやっている姿が浮かんでくる。**

Q31.ホームページが「ある」と答えた方にお聞きします。ホームページは誰が作りしましたか？ (n=345)



Q35.チラシやリーフレットやパンフレットが「ある」と答えた方にお聞きします。チラシやリーフレットやパンフレットは誰がつくっていますか？



資金編

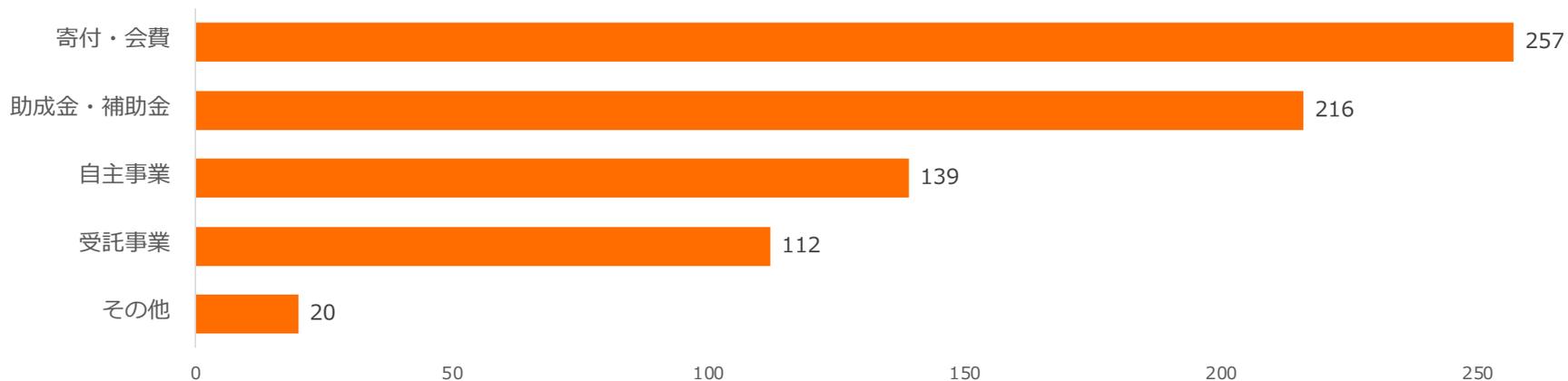


主な収入源

主な収入源は寄付・会費と助成金・補助金が多い

- 寄付・会費 1位 51%
- 助成金・補助金 2位 43%
- 自主事業 3位 28%
- 受託事業 4位 22%

Q39.主な収入源は何ですか？（金額が大きいものを1つまたは複数選択してください） (n=500)

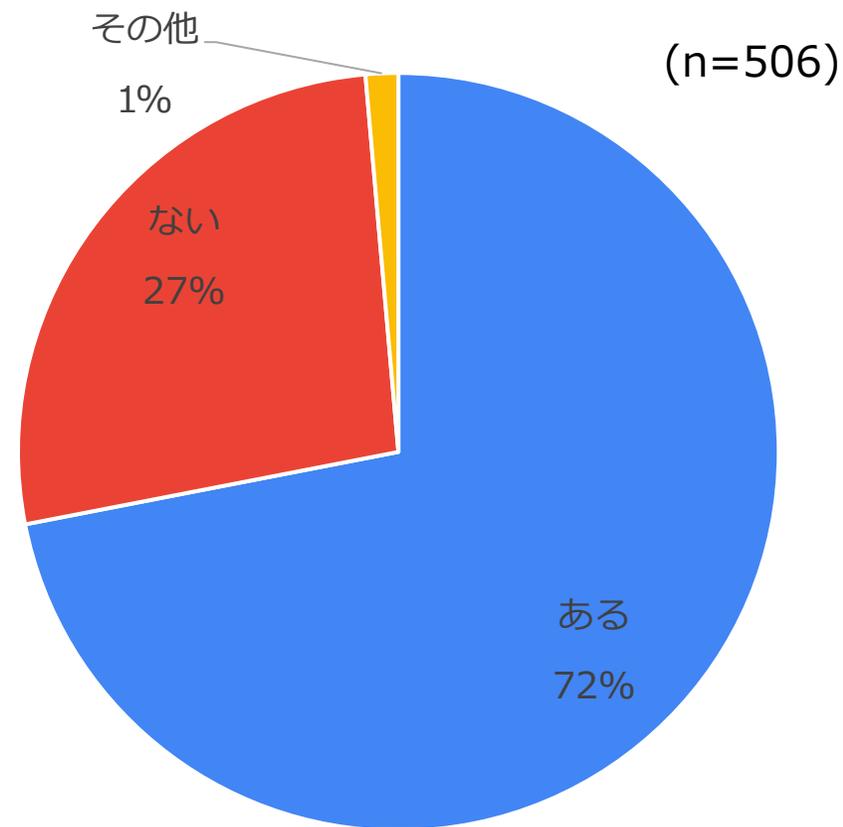


助成金

助成金を申請・活用したことがある団体は70%を超えた

- 申請・活用したことがある 72%
- 申請・活用したことがない 27%

Q40.助成金を申請・活用したことはありますか？

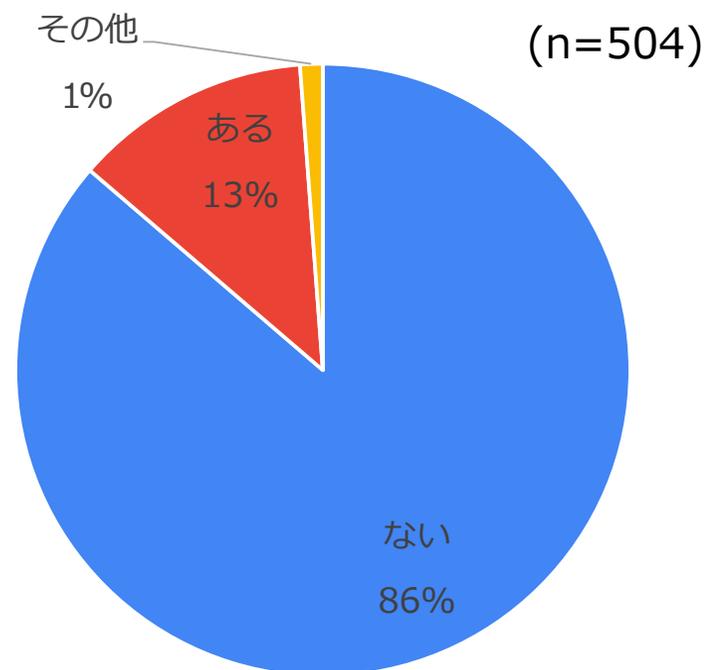


クラウドファンディング

クラファンをやったことがある団体はまだまだ少ない

- クラウドファンディングをやったことがある 13%
- クラウドファンディングをやったことがない 86%

Q43.クラウドファンディングはやったことがありますか？



今後に向けて



今後に向けて

今回の「市民活動・コミュニティ活動の実態調査」へのご協力誠にありがとうございました。

たくさんの回答・データが集まったことによって、**新たな実態が見えてきたり、現場で感覚的に思っていたことが裏付けられたこと**とはとても価値の高いことだと感じています。

今回の「市民活動・コミュニティ活動の実態調査」の各団体の回答は、**団体からのお手紙**のようだと感じました。

今回の調査をプロトタイプとしながら、これをブラッシュアップさせて、**今後も定期的に継続的に実態調査を実施していきたい**と思います。今後ともぜひご協力ください。